

---

## アルス国際製靴学校研修体験記

(平成18年9月24日～12月24日)

株式会社ビナセーコー 島村真如  
サラキ製靴株式会社 山崎 憲

---

この度、東京都皮革産業技術研究員として、イタリア・ミラノにあるアルス国際製靴学校での研修に参加いたしました。3か月間に亘る靴に関する研修を通じて、靴製造に関する技術と知識を習得し、また世界の他の国々の人々と交流する機会を持つことができました。このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝しております。

### 【アルス国際製靴学校】

世界的なファッションの発信地の一つであるイタリアは、靴の製造においても世界をリードしています。靴の製造メーカーだけでなく、皮革、靴の各種材料、靴製造機械等、靴に関係する多くの企業が存在し、長年培われた高い技術を持っています。アルス国際製靴学校は、こういった靴製造の背景を持つイタリアで、主にパターンとデザインを教え、世界各国から生徒が集まる学校です。

私たちが研修に参加したコースには、イタリア、英国、ドイツ、オーストリア、デンマーク、トルコ、インド、台湾、香港、米国、メキシコ、アルゼンチン、日本からの合計19名の生徒が学んでいました。世界の多くの国々の靴製造に関わる人々と、靴製造について意見交換や文化交流を行うことができたことは、靴製造の技術を習得したことと同様に貴重な体験となりました。



授業風景

### 【研修内容】

授業は、まず原型の取り方を学び、その後、外羽根、内羽根、パンプス、サンダル、ローファー、モカシン、スニーカー、アンクルブーツ、ロングブーツ、袋モカシン、プラット等のパターンの作り方を学びました。授業は、先生のデモンストレーションを見て、その後生徒が各自パターンを作ります。そして紙アッパーを作り、木型に乗せて正しくできているかを確認します。こういった方法で各デザインのパターンの作り方を学んでいくのに加え、MONDAY TESTとENVELOPEという課題があります。渡されたデザイン画から自分でパターンと紙アッパーを作成するのですが、ENVELOPEの方は更にライニングも含め裁型まで作成し、提出します。より実際の靴製造に役立つ課題だったと思います。



木型削りデモンストレーション  
左 ヤンヤン・セン氏 右 ロベルト先生

3か月の研修期間、この作業を繰り返す行うことで、パターン作成の基礎技術を徹底的に学ぶことができました。また、紳士靴だけでなく、婦人靴、子供靴のパターンの作り方も学ぶので、幅広い体系的な技術を習得することができました。アルスで教えている「ルナティシステム」と呼ばれる独自の理論に基づいた方法では、比較的簡単に速くパターンを作成することができます。ただし、日本ではまず木型にデザインを描きますが、アルスではすべて型紙の上にデザインを展開していくので、実際靴になったときどのようなラインになるかを理解するには、経験が必要だと思います。

パターンの他にデザインの描き方も習いますが、これもパターンと同様にルール化されている方法があり、これに従って描いていくと比較的容易に靴のデザインを描くことができます。また、靴各種製法、皮革、型入れ、木型プロポーション、国際ショナルサイズシステム等の講義があり、靴に関わる幅広い知識を習得することができました。

その他に授業の一環として、皮革の展示会、皮革工場（タンナー）と靴工場の見学がありました。皮革の展示会「リニアペレ」は、年2回ボローニャで開かれ、皮革以外に靴の各種材料も展示される展示会で、そ

の規模の大きさは開催期間の3日間でも回りきれない程です。イタリアには、靴を作る靴メーカーだけでなく、靴メーカーに材料を供給する多くの皮革タンナーや材料メーカーがあり、靴産業がイタリアで占める大きさを知ることができます。私たちが見学した靴工場では、世界的に有名なブランドの婦人靴を製造していますが、その工場の規模の大きさと整然とした生産ライン、そして最先端の工場設備・技術にたいへん驚かされました。



タンナー見学 (Stefania)

卒業試験が最後にあり、筆記試験、実技試験、口答試験が行われます。筆記試験は、講義で学んだ内容をレポートとしてまとめ事前に提出します。実技試験は、デザイン画からパターンと紙アッパーを5型作成し、これも事前に提出します。そして最終日に口答試験が行われ、ルナティ氏と他の試験官から講義で学んだ内容について質問され、また実技試験で作成したものやこれまでに提出した課題等が確認されました。



左 山崎憲 中 ルナティ先生 右 島村真如

## 【イタリアでの生活】

アルスは、ミラノの西側、展示会場 FIERA の近くに位置し、交通は、地下鉄、鉄道、トラム等を利用して行くことができます。アルスの事業は、学校だけでなく、靴やバッグに関する雑誌の編集、発行も行っており、オフィス・学校と同じビルに生徒のための住居もあります。私たちは、2人部屋の同室で、キッチンもあったので、自炊をすることもできました。スーパーマーケットは、歩いていける範囲に何軒もあり、食料品、飲料水を買に行くことができます。レストランも近所に数軒あり、他の生徒といっしょに食事に行くこともありました。ピザやパスタが主で、初めのうちはたいへん美味しく感じるのですが、毎日となるとだんだん飽きてきます。歩いて15分くらいのところに中華系の人々が住む地区があり、そこには中華レストランも多くあり、値段も安いことからよく利用しました。

イタリア語は、動詞が1人称、2人称、3人称、それぞれの単数、複数の6通りに変化し、名詞にも男性形、女性形があるなど文法は複雑で本格的に勉強するのはたいへんですが、たとえ挨拶だけでもイタリア語で話しかけるとイタリア人とコミュニケーションをする良いきっかけになります。

ミラノに限らずイタリアのほとんどの町には、何世紀も前の建造物が今でも残っており、なかには現在も使用されているものもあり、それらが自然と町の中に調和し溶け込んでいて、歴史や情緒を感じることができます。

ミラノでは、DUOMOという有名な教会の近くに有名ブランド等のショップが集まる地域があり、またCORSO BUENOS AIRESという通りにも、有名、無名の多

くのショップが集まっています。ウィンドーショッピングという言葉の通り、ショーウィンドーに多くの商品が並べられており、最新のイタリアのファッション、靴を多く見ることができました。

## 【研修を終えて】

この研修を通じて、1. 独自の理論に基づいたアルスの技術を習得した 2. 幅広い体系的な技術・知識を習得した 3. イタリア靴産業の背景や最新技術を知ることができたという成果を得ることができました。今後、この研修で得た技術・知識を従来のものと比較し、これを活用することで、1. 履き心地が良く快適な靴の製作 2. 製作期間の短縮を期待することができると思います。3か月もの長期に亘り職場を離れ、新たな技術と知識を習得し、また他の国々の靴製造に関わる人々と交流を深めることができたことは、たいへん有意義で貴重な経験となりました。私たちがこの研修に参加するためにご尽力いただいた方々に心から御礼を申し上げます。